

「現代女性の美しさへの意識」調査II ～エイジング意識について～

① エイジングに対する気持ち

加齢することは「仕方がない」けれども、
「自然なこと」「人間として深みを増す」といった
前向きな気持ちで捉えられている

② エイジングの抵抗感とアンチエイジング対策への意向

多くの女性に加齢は「自然なこと」と受容されるものの、
美容に関するアンチエイジング対策への関心は高い

③ 「気分年齢」「外見年齢」「現在・10年後見られたい年齢」

年代意識をみると

「気分年齢」は実年齢より5.35歳若い、「外見年齢」は2.88歳若い、
「現在見られたい年齢」は3.85歳若い、「10年後見られたい年齢」は5.20歳若い
「気分年齢」「外見年齢」「見られたい年齢」は年代が上がるほど、若くなっている

「気分年齢」は「外見年齢」より若く、“外見より気が若い”人が多い
「10年後」は実年齢や「現在見られたい年齢」より若く、
将来も若くありたい(≒若さを保ちたい)といった気持ちが継続

【調査概要】

調査時期：2006年11月

調査方法：インターネット調査

調査対象：東京23区および政令指定都市(※1)に居住する 20～59歳の女性 2500人
(20～24歳：283人、25～29歳：324人、30～34歳：380人、35～39歳：338人、
40～44歳：295人、45～49歳：257人、50～54歳：280人、55～59歳：343人(※2))

※1 政令指定都市：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

※2 「平成17年国勢調査」から対象者居住地域の人口構成比にもとづいて年齢5歳単位で割付

2007年 2月15日

①エイジングに対する気持ち

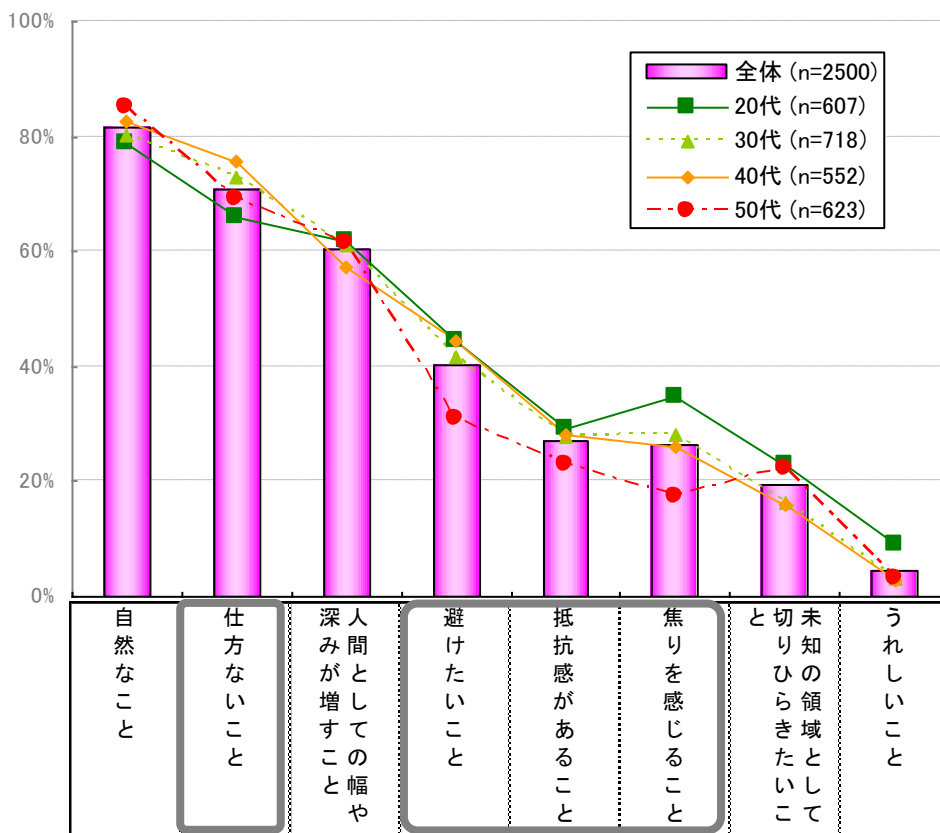
加齢することは「仕方がない」けれども、
「自然なこと」「人間として深みを増す」といった
前向きな気持ちで捉えられている

女性は加齢に対してどのように受けとめているの？

加齢(年をとっていくこと)の捉え方をみると、全体では「自然なこと」(82%)、「人間としての幅や深みが増す」(61%)といったポジティブ・ニュートラルな意識とともに、「仕方がないこと」(71%)といったネガティブ要素を含む意識も上位に上がっている。仕方がないことだけでも、プラスに受けとめるという、ひとつの反動を含んだ意識がうかがえる。

年代別にみると、50代において「避けたい」「抵抗感」「焦りを感じる」といったネガティブな気持ちがやや少なくなっている。一方、20代では「焦りを感じる」が多くなっており、今後加齢を経験していくことに対し、不安を感じている様子。

【図表1 加齢に対する気持ち(いくつでも) 基数:全体】



	自然なこと	仕方がないこと	人間としての幅や深みが増すこと	避けたいこと	抵抗感があること	焦りを感じること	と切りひらきたいとして未知の領域	うれしいこと
全体 (n=2500)	81.6	70.8	60.5	40.4	27.0	26.5	19.4	4.4
20代 (n=607)	78.8	65.9	61.7	44.6	29.2	34.6	23.0	8.9
30代 (n=718)	80.1	73.0	61.1	41.7	27.9	28.1	16.4	3.0
40代 (n=552)	82.7	75.6	57.5	44.4	28.3	25.9	15.9	2.7
50代 (n=623)	85.2	69.3	61.4	31.0	22.8	17.4	22.2	3.0

年代別

※ ネガティブ要素を含む項目

②エイジングの抵抗感とアンチエイジング対策への意向

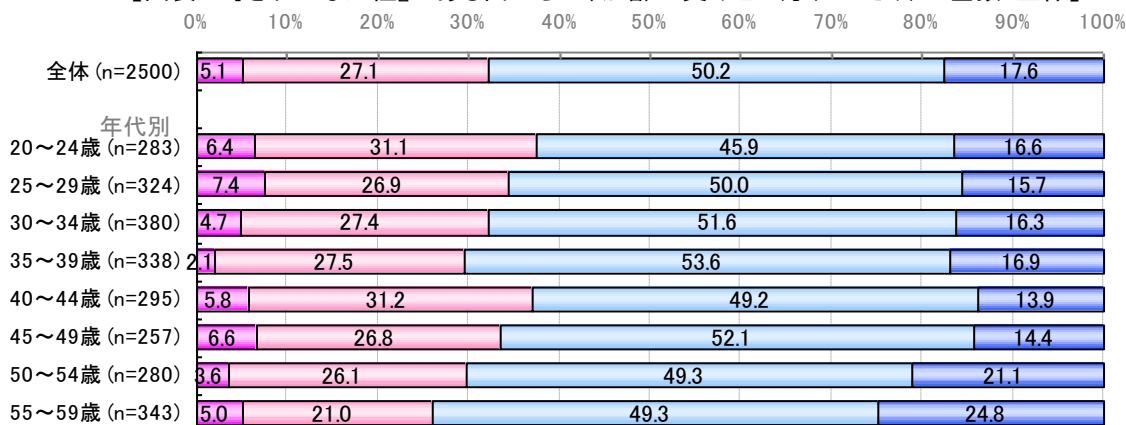
多くの女性に加齢は「自然なこと」と受容されるものの、美容に関するアンチエイジング対策への関心は高い

加齢への抵抗感はどの程度抱かれているの？

『きれいな女性』である面からの加齢の受けとめ方をみると、「自然+どちらか」というと自然なこととして受け入れる」が全体の約7割を占め、抵抗感を抱いている人は3割程度にとどまる。

年代別にみると、加齢を最も経験している50代後半では、加齢に対する抵抗感が他年代よりやや少なく、加齢に対する受容の姿勢がうかがえる。

【図表2 『きれいな女性』である面からの、加齢の受けとめ方(1つだけ) 基数:全体】



□ 抵抗感があり、避けたい □ どちらかという抵抗感があり、避けたい □ どちらかという自然なこととして受け入れ、気にしない □ 自然なこととして受け入れ、気にしない

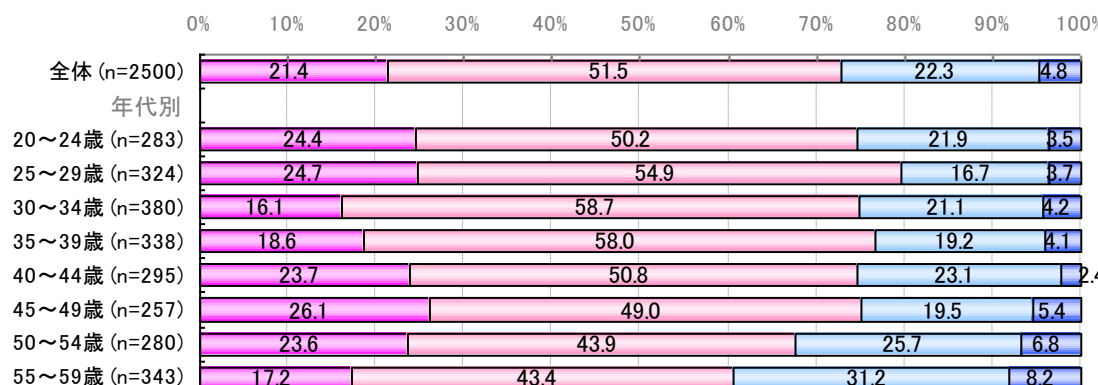
美容に関するアンチエイジング対策への意向はどの程度？

『きれいな女性』になるための、美容に関するアンチエイジング対策への意向をみると、「積極的に+ややアンチエイジングをしたい」が全体の7割を占め、多くの女性がアンチエイジング対策への意向を持っている。

年代別にみると、50代後半においてアンチエイジング対策への意向が他年代より低いものの、6割に達している。

加齢の受けとめ方別にみると、抵抗感がある人ほど対策への意向を抱いている。一方、『自然なこととして受け入れる』人においても過半数が対策への意向を抱いており、加齢を自然なこととして受け入れ、気にしないと受けとめているものの、アンチエイジングへの感心も同時に抱いている人が少なくないといえる。

【図表3 美容に関するアンチエイジング対策への意向(1つだけ) 基数:全体】



『きれいな女性』である面からの加齢の受けとめ方

自然なこととして受け入れる(n=439)

どちらかという自然なこととして受け入れる(n=1255)

どちらかという抵抗感があり、避けたい(n=678)

抵抗感があり、避けたい(n=128)

□ 積極的に対策をしたい □ やや対策をしたい □それほど対策をしたいと思わない □ 対策をしたいと思わない

③ 「気分年齢」「外見年齢」「現在・10年後見られたい年齢」

「気分年齢」は「外見年齢」より若く、“外見より気が若い”人が多い
 「10年後」は実年齢や「現在見られたい年齢」より若く、
 将来も若くありたい(≒若さを保ちたい)といった気持ちが継続

自分自身が思っている、気持ちや外見、見られたい年齢は『年下』『年上』？

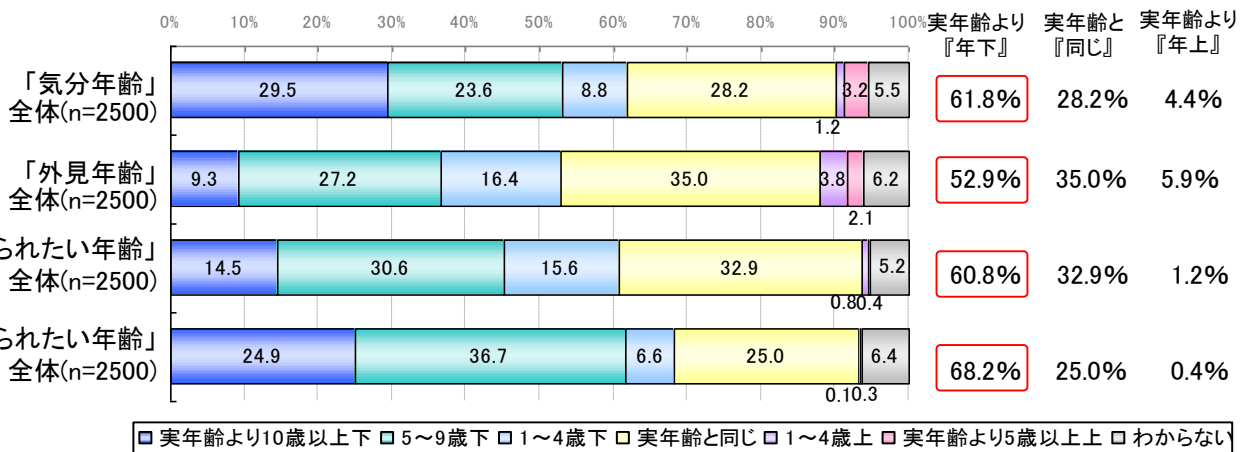
「気分年齢」(気持ちの年齢) : 実年齢より『年下』と思っている人が全体の約6割、『変わらない』は約3割でほとんどの女性が実年齢より若い意識をもっている。

「外見年齢」(外見の年齢) : 実年齢より『年下』と思っている人は全体の約5割であり、1～9歳『年下』がボリュームゾーン。
 「外見年齢」「気分年齢」の関係をみると、「外見」より「気分」の年齢が『年下』であるパターンが多く、“外見より気が若い”人が多いと確認できる(図表5_i 参照)。

「現在見られたい年齢」 : 実年齢より『年下』に見られたいと思っている人は、全体の約6割。
 「現在見られたい年齢」と「気分年齢」の関係では、「気分」の年齢が『年下』、もしくはどちらも『同じ』年齢感であるパターンが多い(図表5_ii 参照)。
 「現在見られたい年齢」と「外見年齢」の関係をみると、どちらも『同じ』年齢感、「現在見られたい」が『年下』であるパターンが多い(図表5_iii 参照)。

「10年後見られたい年齢」 : 10年後、実年齢より『年下』に見られたいと思っている人は、全体の約7割と多くを占める。
 「10年後」と「現在見られたい年齢」の関係をみると、どちらも『同じ』年齢感、「10年後」の年齢が『年下』であるパターンが多く、将来も若くありたい(≒若さを保ちたい)といった意識が伺える(図表5_iv 参照)。

【図表4 自分自身の年齢意識 実年齢との差(1つだけ/数字記入) 各基数:全体】



【図表5 年齢意識の関係(1つだけ/数字記入) 各基数:「わからない」の回答者以外】

i 「気分年齢」と「外見年齢」の関係

「気分年齢」が「外見年齢」より年下	51.7
「気分年齢」と「外見年齢」が同じ	33.8
「気分年齢」が「外見年齢」より年上	14.5

(%) (n=2295)

iii 「現在見られたい年齢」と「外見年齢」の関係

「現在見られたい年齢」が「外見年齢」より年下	39.7
「現在見られたい年齢」と「外見年齢」が同じ	43.8
「現在見られたい年齢」が「外見年齢」より年上	16.5

(%) (n=2290)

ii 「気分年齢」と「現在見られたい年齢」の関係

「気分年齢」が「現在見られたい年齢」より年下	40.9
「気分年齢」と「現在見られたい年齢」が同じ	38.7
「気分年齢」が「現在見られたい年齢」より年上	20.4

(%) (n=2300)

iv 「10年後見られたい年齢」と「現在見られたい年齢」の関係

「10年後」が「現在見られたい年齢」より年下	42.1
「10年後」と「現在見られたい年齢」が同じ	49.0
「10年後」が「現在見られたい年齢」より年上	8.9

(%) (n=2298)

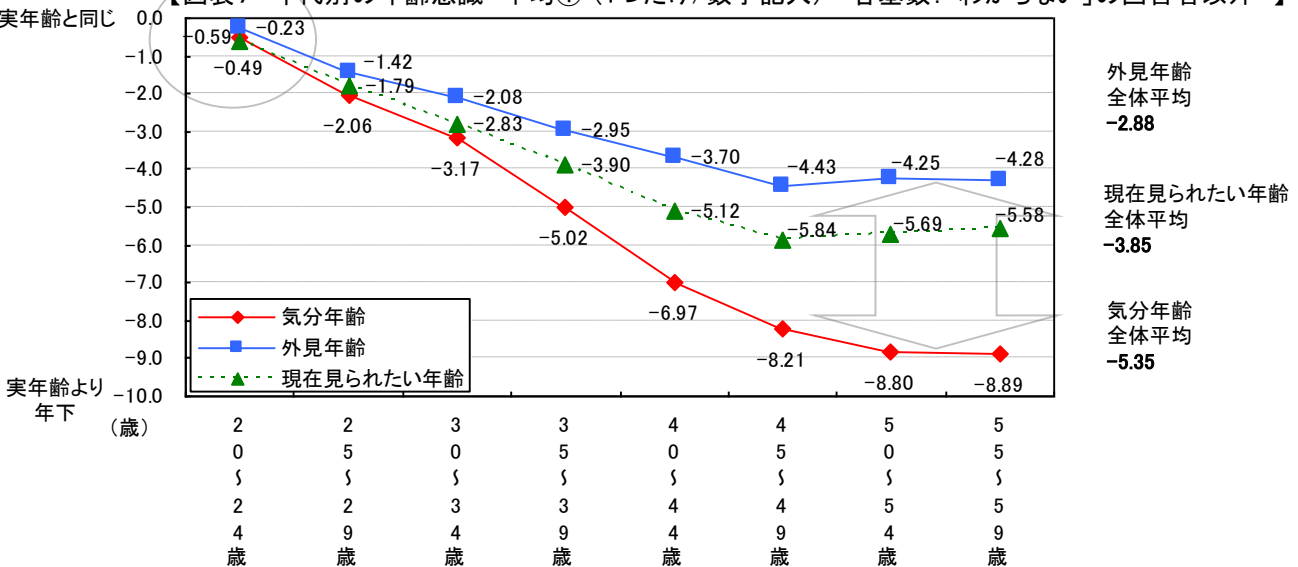
気持ちや見られたい年齢は加齢するほど実年齢より若くなり、 20代前半では実年齢と差はあまりないものの、 50代の気持ちは約9歳若く、周りから約4歳若く見られたい状況

女性の年齢意識は、実年齢と平均何歳違うの？

自身が意識している年齢と実年齢との差の平均をみると、20代前半では「気分年齢」「外見年齢」「現在見られたい年齢」とも実年齢との差は大きくないものの、年代が上がるほど実年齢より若くなっている。ただし、40代後半以降の「外見年齢」「現在見られたい年齢」は横ばいになっており、周りから見られる年齢意識が固まっているようだ。

各年代で「気分年齢」は「外見年齢」より若く、年代が上がるほど差は広がり、気持ちほど現実(外見)は若くないと思っている様子。また、「現在見られたい年齢」も「外見年齢」より若くなっており、周りから見られる年齢の理想と現実のギャップがうかがえる。

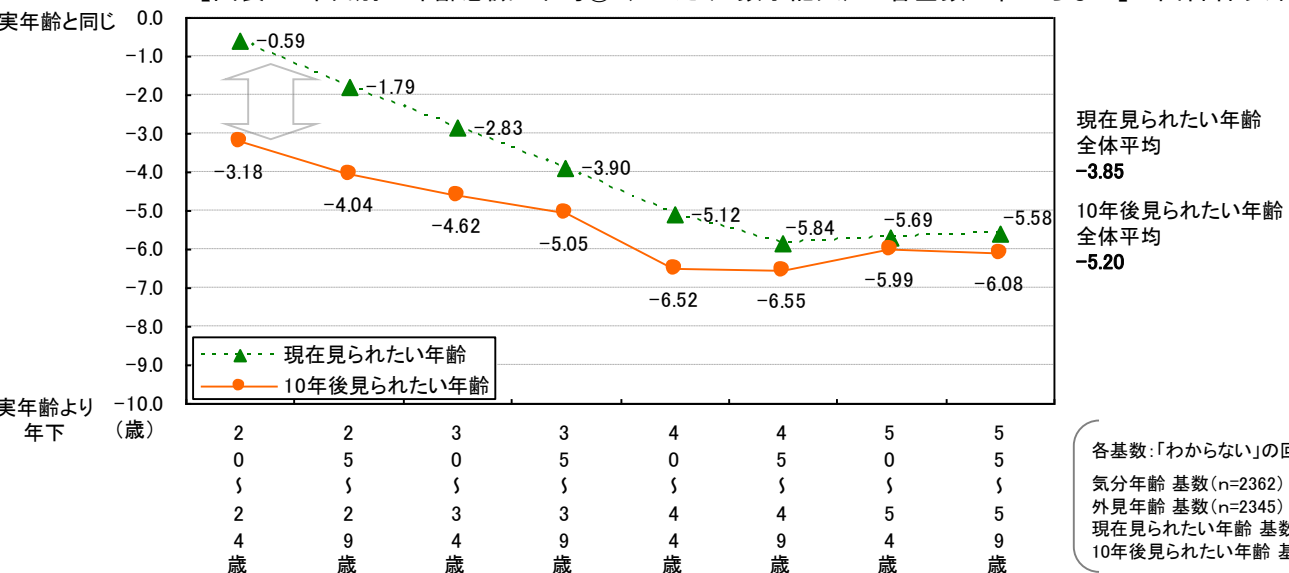
【図表7 年代別の年齢意識 平均① (1つだけ/数字記入) 各基数:「わからない」の回答者以外】



「現在」と「10年後見られたい年齢」の平均年齢では、それぞれ、年代が上がるほど実年齢より若くなっており、40代ごろからほぼ横ばい(「現在」は40代後半、「10年後」は40代前半から横ばい)。

「現在」と「10年後」の差をみると、「現在」より「10年後」が若く見られたい状況。若年層ほど「現在」と「10年後」の年齢の差が広がっており、加齢後も若く見られたい(≒若さを保ちたい)意識がうかがえる。一方、40代後半以降は「現在」と「10年後」のギャップが縮まっている。

【図表8 年代別の年齢意識 平均② (1つだけ/数字記入) 各基数:「わからない」の回答者以外】



結 語

女性は、加齢することを「仕方がないが自然である」と前向きに受けとめ、「『きれいな女性』である面から考える加齢」への抵抗感は3割にとどまるものの、美容に関するアンチエイジング対策への意向は7割がもっている。

若くありたい(≡若さを保ちたい)気持ちは年を重ねるほど強くなっているとみられ、「見られたい年齢」は年代が上がるほど実年齢より若くなっている。

また、20代前半では「気分年齢」「見られたい年齢」「外見年齢」は実年齢と差はあまり見られなかったものの、年代が上がるほど「気分年齢」は若くなり、「外見年齢」との差が広がっている。“見た目より気が若い”人が増えている状況。

一方、「外見年齢」は「現在見られたい年齢」より高くなっていることから、若くありたい(≡若さを保ちたい)気持ちをもちつつ、現実的な目で自分を見ていると考えられる。